

## 第一排水区の水害対策を

小野 潔

問 雨水の第1排水区、特に吉川駅北口マルヤ周辺の浸水被害対策を市ではどの様に考えていますか。

答 都市建設部長 軽減を図る為には3万㎡の雨水の貯水が必要で、保、保第二、関の各公園の地下に貯水槽を建設するか、駅前から川藤まで木売り落としを2.6m深掘りする二案がある。

問 多額な予算がある。現在公明党で提案している「防災・減災ニューディール」政策は10年間毎年10兆円の公共投資を行い、50年以上経過した道路、橋等を建替える防災、景気対策です。市でも要望等をすべきでは。

答 都市建設部長 財源確保の為その様な時は県、国に要望していきます。

## ◆文化・芸術の推進を

問 ①市では文化・芸術等に貢献された方に表彰条例に基づき表彰を行っているが、もう少し身近で簡易的な表彰をしては

②新庁舎建設時に展示スペース、展示備品の確保を。

答 教育部長・総務部長

①文化連盟等で協議をする。  
②新庁舎検討委員会でのその様な意見が出されれば、基本構想に入れることを含め検討する。

## ◆携帯型熱中症計の配布を

問 ①一人暮らしの高齢者に携帯型熱中症計を配布しては。  
②熱中症予防協力店事業を。

答 健康福祉部長 ①配布ではなく、まず予防の啓発を行う。②商工会と連携して検討する。

## 介護保険改定「ホームヘルパー」の家事援助時間短縮問題

小林 昭子

問 家事援助の介護時間を60分単位から45分等に短縮した。今後利用時間は自動的に短縮されるのか。

答 市長 時間区分の改定により自動的に短縮されるものではなく適切なアシメントとケアマネジメントにより、利用者ニーズに基づきサービスが受けられるものと考える。

◆吉川美南駅から東部地域の新バス路線―三輪野江地区にも走行を

答 政策室長 ルート変更は利用状況、市民ニーズを把握、必要に応じて変更していく。

## ◆難聴福祉に磁気ループを

問 老人性難聴は70歳以上の半数と推定。バス内、ホール、窓口等で有効とされる磁気ループの吉川市での導入検討を。

答 健康福祉部長 補聴器の種類によって受信できないものが多数あるので導入はしない。

## ◆障害者日常支援サービスの移動支援充実を求める

答 健康福祉部長 障害者の権利として、国会に上がる前の

障害者制度改革推進委員会の総合福祉部会は「歩くこと、動く事は、話す・聞く・見ると同様の権利だ。移動支援は市町村の裁量に基づく事業はなじまない。」と結論。国は3年後をめどに国の自立支援給付にもっていくとしている。そのような形になれば障害の程度や区分で制限されるのは少なくなると期待している。

## 市の公共施設、橋梁等の延命策を

遠藤 義法

問 市の公共施設や橋は建築後数十年経つものも多く、維持補修を計画的に実施することが施設等の延命策として重要である。今後の取り組みは。

査研究をし、計画案を策定していく。

答 都市建設部長 市内には178の橋があり、平成25年度以降修繕計画をつくり国の補助を受けて補修していきたい。

## ◆きよみ野地内の大型車通行対策は

問 三郷吉川線が開通し、大型車の交通量も増えているように見受けられる。関小学校から以北の三郷吉川線が拡幅されていないことから、きよみ野地内が通過道路として利用されているのではないかと。

①交通量の実態とその対策は。  
②三郷吉川線の延伸拡幅工事計画は。  
③越谷吉川線の完成時期は。

答 都市建設部長 6月7日、おあしす付近で午前7時から午後7時まで調査をしたところ、小型車4千194台、大型車291台でした。比較データがないので、今後交通量の推移を把握したい。②は県で計画が定まっていけないので要望していく。③は、吉川橋、中央土地区画地内を含め、平成30年度頃完成と予想される。



共保雨水ポンプ場

答 市長 施設など建設後長期間使用しているものも多く、更新費用が大きな負担となり、維持管理の取り組みが必要である。今年度から共保、高久ポンプ場の長寿命化計画を策定し、施設改修を実施する。他については今後調